



平成27年度 第2回 入退院調整部会

平成27年12月17日(木)
豊明市役所本館3階 会議室1

<事業目的>

本実証事業におけるケース支援を通じて、退院調整や在宅療養の移行にかかる課題、医療介護福祉連携の在り方、支援に必要な各機関の役割やしきみ等を検証する。

<取りまとめ期間>

平成27年7月1日～11月30日 分

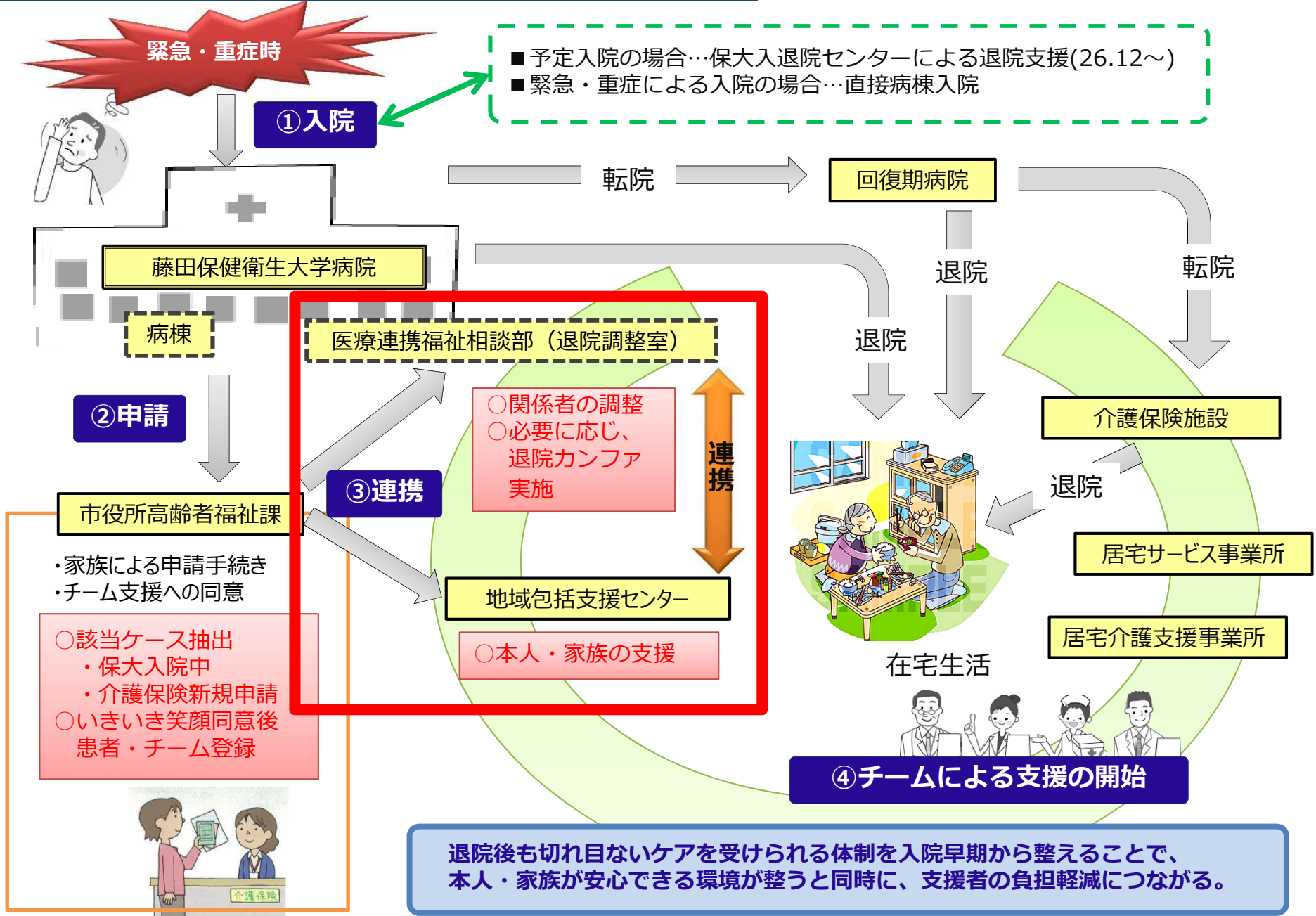
<対象ケース>

- ①保大HP入院中で、新規介護保険申請者・・・27件
- ②医療連携福祉相談部に相談のあった困難ケース・・・0件

<実施概要>

- ・新規介護認定申請時に把握された上記①②のケースに対し、家族の同意を得た上で、市から藤田保健衛生大学病院医療連携福祉相談部・地域包括支援センターに連絡し、早期に連携して支援チームをつくり、患者家族への支援を行う。
- ・情報共有ツールとして、ICT(いきいき笑顔ネットワーク)を活用しながら、対象ケースを一定期間モニタリングし、医療介護福祉連携にかかる課題を整理する。

平成27年度 退院支援地域連携実証事業（概要）



平成27年度 退院支援地域連携実証事業（集計1）

<対象ケース年齢>

年齢	人数
65～69才	1
70～74才	7
75～79才	12
80～84才	3
85～89才	4
90才～	0

<申請月>

申請月	人数
7月	9
8月	6
9月	4
10月	7
11月	1

<入院の経緯>

主治医意見書	人数
骨・関節疾患	6
腫瘍	8
脳血管疾患	5
心疾患	1
腎疾患	1
呼吸器疾患	3
その他	3

<性別>

性別	人数
男性	15
女性	12

<相談室関与>

関与	人数
あり	17
なし	7
不明	3

＜藤田保健衛生大学病院退院直後の行き先＞

行き先	人数
転院	6
自宅	12
施設入所	1
※入院からそのまま死亡	3
※入院中	2
※不明	3

＜転院した6名の転院先詳細＞

転院先 詳細	人数
辻村外科病院	4
第一なるみ病院	1
相生山病院	1

＜転院・自宅・施設入所者19名の現在の状況＞

現在の状況	人数
入院(再)	2
入所	2
自宅	11
死亡	3
不明	1

平成27年度 退院支援地域連携実証事業（集計3）

<介護認定結果>

介護認定結果	人数
結果が出ている	22
結果が出ていない	5

※結果が出ていない理由
申請中に死亡(2)、申請取り下げ(2)、申請中(1)

<22名のうち、結果が出た時の本人所在>

結果が出た時の本人所在	人数
藤田保健衛生大学病院	6
転院先の病院	6
自宅	10

<22名の介護度>

介護度内訳	人数
要支援 1	2
要支援 2	4
要介護 1	4
要介護 2	3
要介護 3	1
要介護 4	4
要介護 5	4

<22名の介護度別 12/14現在のサービス利用人数>

介護度内訳	12/14居宅または施設サービスが開始されている人数
要支援 1	0
要支援 2	施設1,居宅3
要介護 1	居宅1
要介護 2	居宅1
要介護 3	0
要介護 4	施設1,居宅1
要介護 5	施設1
計	9人/22人

※結果は出ているが、12/14時点でサービス利用につながっていない人が13人。



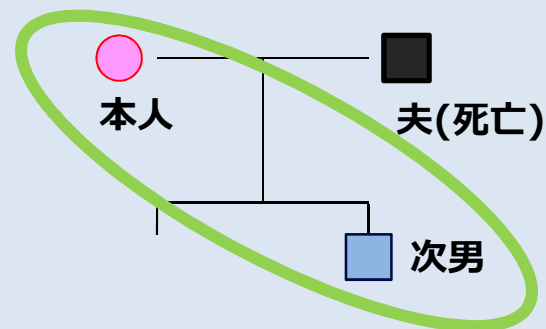
退院支援地域連携実証事業から

～対象ケースの動向～

退院支援地域連携実証事業 ケース1 入院からそのまま入所となったケース

■ ケース概要(No.3)

- ・ 本人状況 Aさん 86歳女性 息子と2人暮らし
入院経緯：右足踵骨折(6/11～)
- ・ 介護申請 申請者：同居の息子 申請日：7/2
※ケースワーカーより勧められ申請
- ・ 診療科 保大HP消化器内科→辻村外科転院



■ 申請時、息子さんからの聞き取り

- ・ 息子が仕事をしている日中は独居になる。
- ・ リハビリでどの程度まで回復するか分からないが、自宅に戻れた場合の生活が心配。
- ・ 認知症の症状が進んでいるように感じる。
- ・ 介護保険手続きのこと、サービスのことはよく分からない。

■ 認定調査結果（一部抜粋）

	身体機能（ADL）				生活機能（IADL）		
	○できる	△つかまれば可	×できない		○自立	△一部介助	×全介助
寝返り	△			移乗	△		
起き上がり	△			移動	×		
座位保持	△			嚥下	○		
立位保持	×			食事摂取	○		
歩行	×			排尿・排便	×		
立ち上がり	×			洗顔	△		
				着脱	△		

退院支援地域連携実証事業 ケース1 入院からそのまま入所となったケース

■入院から現在までの動向と支援状況

居場所	保大HP →	辻村外科HP →	豊明老健 →	第一なるみHP →	豊明老健 →	相生山HP
事 項	・入院 ・申請	・転院 ・調査 ・認定	・入所	・再入院	・再入所	・再入院
日 付	6/11 7/2	7/6 7/21 8/11	8/29	8/31	10/5	10/30～
経過日数	0日 21日	25日 40日 60日	78日	80日	115日	140日
本人状況	・右足踵骨折		・要介護4	・転倒骨折		・急性肺炎
本人・家族支援		↑ 7/21 ・包活が調査同行		↑ 9/9 ・包活がTEL		

■分析・関係者コメント 等

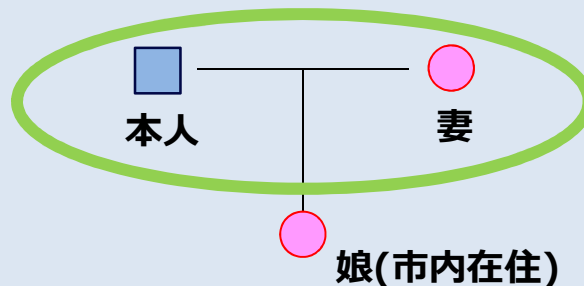
- ・ 本人が状態不安定で入退院を繰り返し、情報がつながりにくかったケース。近隣の病院を転々とする。
- ・ 在宅復帰を検討する際には、**かかりつけ医**の有無が早い段階で分かっているとよりいい。→ 包括から息子への聞き取りで判明

<参考：地域のかかりつけ医>

	人数
分かるケース	3
分からないケース	24

■ケース概要(No.8)

- ・ 本人状況 Bさん 89歳男性 妻と2人暮らし
入院経緯：誤嚥性肺炎 (7/26～)
- ・ 介護申請 申請者：娘(市内在住) 申請日：7/31
※ケースワーカーより勧められ申請
- ・ 診療科 保大HP消化器内科



■申請時、娘さんからの聞き取り

- ・ 病院でリハビリ中。リハビリを受けて歩けるようになるといい。
- ・ 住宅改修も必要かも知れない、と思っている。
- ・ 前立腺肥大による排尿障害がある。

■認定調査結果 (一部抜粋)

	身体機能 (ADL)				生活機能 (IADL)		
	○できる	△つかまれば可	×できない		○自立	△一部介助	×全介助
寝返り	△			移乗	○		
起き上がり	△			移動	見守り等		
座位保持	△			嚥下	見守り等		
立位保持	○			食事摂取	見守り等		
歩行	△			排尿・排便	×		
立ち上がり	△			洗顔	△		
				着脱	△		

退院支援地域連携実証事業 ケース2 入退院を繰り返したケース

■入院から現在までの動向と支援状況

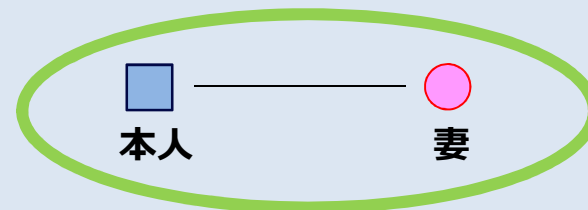
居場所	保大HP →			自宅 →		保大HP →	自宅 →	保大HP →	相生山HP
事 項	・入院	・申請	・調査	・退院	・認定	・再入院	・退院	・再入院	・転院
日 付	7/26	7/31	8/11	8/13	9/1	9/26	10/8	10/29	12/7～
経過日数	0日	5日	16日	17日	35日	60日	72日	93日	101日～
本人状況	・誤嚥性肺炎			・要介護2		・誤嚥性肺炎		・誤嚥性肺炎	・嚥下訓練
本人・家族支援				↑ 8/14	↑ 8/17		↑ 10/8		
				・包活 訪問	・包括訪問 →居宅紹介 ☆居宅サービス開始		☆居宅 サービス		

■分析・関係者コメント 等

- ・退院後は自宅復帰のため、できるだけ早めのサービスの調整が必要であったケース。
- ・誤嚥性肺炎により繰り返す入退院で、在宅時⇔入院時の情報共有がどのようにされていたか。

■ケース概要(No.4)

- ・ 本人状況 Cさん 73歳男性 妻と2人暮らし
入院経緯：食道がん、リンパ節転移(6/4～)
- ・ 介護申請 申請者：妻(同居) 申請日：7/15
※ケースワーカーより勧められ申請
- ・ 診療科 緩和ケア病棟



■申請時、妻からの聞き取り

- ・ 訪問看護で点滴の管理をお願いしたいとのことで申請にきた。
- ・ 自宅に戻ってくるが、妻が身の回りのことはするつもり。

■認定調査結果（一部抜粋）

	身体機能 (ADL)				生活機能 (IADL)		
	○できる	△つかまれば可	×できない		○自立	△一部介助	×全介助
寝返り	○			移乗	○		
起き上がり	△			移動	○		
座位保持	○			嚥下	できない		
立位保持	○			食事摂取	×		
歩行	○			排尿・排便	○		
立ち上がり	△			洗顔	○		
				着脱	△		

退院支援地域連携実証事業 ケース3 ターミナルで医療サービスのみとなったケース

■入院から現在までの動向と支援状況

居場所	保大HP →		自宅 →			保大HP →		自宅 →		保大HP	
事 項	・入院	・申請	・退院	・調査	・認定	・再入院	・退院	・再入院	※死亡		
日 付	6/4	7/15	7/28	7/31	8/27	9/9	9/24	11/13	11/23		
経過日数	0日	41日	54日	57日	84日	95日	110日	159日	169日		
本人状況	・食道がん		・要介護3			・感染		・発熱			
本人・家族支援	↑ 7/ ・保大居宅、訪看による本人家族面接		↑ 7/29 ・医療による保大訪看、訪診、薬剤管理			↑ 9/24～ ・医療による訪看等					

訪看より福祉用具貸与について提案。
利用料金、置き場所の理由により「まだ大丈夫」とのこと。
経済的に厳しく、補聴器を買うお金がない、とも話す。

■その他関係者コメントより

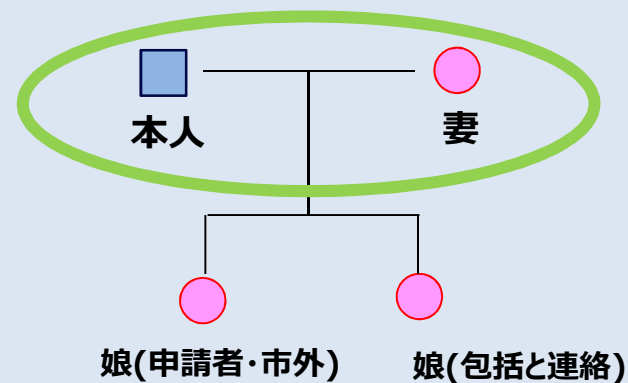
- ・がん末期で、状態悪化時は緩和医療科への再入院という方針となっていたケース。
- ・病棟医師、相談室、地域包括ケア中核センターが直接のやりとりをされ、本人の在宅復帰に向けて調整をすすめていた。
- ・訪問看護、訪問診療などの医療的サービスと妻の介護により、本人の在宅生活が継続されていた。

■ケース概要(No.2)

- ・ 本人状況 Bさん 83歳男性 妻と2人暮らし
入院経緯：大動脈弁狭窄症、脳梗塞、心不全(3/8～)
- ・ 介護申請 申請者：長女(市外在住) 申請日：7/1
※申請を勧められた。(どこからかは不明)
- ・ 診療科 保大HP心臓外科→辻村外科

■申請時、娘さんからの聞き取り

- ・ 来週には辻村外科に転院予定。具体的に、希望する介護サービスは決まっていない。
- ・ 奥さまは身体が弱く、家事等は本人が行っていたため退院後が心配。



■認定調査結果 (一部抜粋)

	身体機能 (ADL)				生活機能 (IADL)		
	○できる	△つかまれば可	×できない		○自立	△一部介助	×全介助
寝返り	△			移乗	○		
起き上がり	△			移動	見守り等		
座位保持	○			嚥下	見守り等		
立位保持	○			食事摂取	○		
歩行	△			排尿・排便	見守り等		
立ち上がり	△			洗顔	○		
				着脱	△		

退院支援地域連携実証事業 ケース4 長期入院ののち自宅退院となり、在宅生活が継続されているケース

■入院から現在までの動向と支援状況

居場所	保大HP →	辻村外科 →	自宅 →
事項	・入院 ・申請	・転院 ・調査 ・認定	・退院
日付	3/10 7/1	7/9 7/17 8/4	8/24
経過日数	0日 140日	149日 157日 174日	194日
本人状況	・大動脈弁狭窄症 ・脳梗塞	・歩行リハビリ ・要支援2	
本人・家族支援		↑ 7/28 ・包括 がTEL	↑ ↑ ↑ ↑ 8/18 9/15 9/18 10/16~ ・次女から 包括に TEL ・退院決まっ た、と。 ・車椅子レンタ ルやデイベ スについて問 合わせ ・長女から包 括にTEL ・包括 面接 ・居宅 届出 ☆リハビリデ イ開始

■分析・関係者コメント 等

- ・主治医意見書によると、3/8の入院以降一旦退院したと思われるが、すぐに再入院。入院が長くなっていたケース。
- ・7/1の申請からサービス利用開始まで時間が経っていたが、その間包括と娘との間で必要な情報共有がされていた。



退院支援地域連携実証事業から

～まとめ・考察～

退院支援地域連携実証事業から見てきたもの

1 患者の傾向・転院動向について

- 患者の転院動向はほとんど同じ。
- 高齢者のケアにおいて連携すべき診療科、医療機関はある適度限定される。

2 情報の集約について

- 患者の情報は、転院先（市外）で途切れ、行方不明になる。
- 入退院を繰り返す患者について、それぞれのフェーズごとに新たに加わった情報（治療経過・生活状況）が次につながり、ケアに活かされているのか不明

3 居宅支援を行うタイミングについて

- 申請から、実際に介護サービスが必要となるまでの時間が長く、包括等の関わりが途切れる→知らない間に入所
- 本人からのアプローチがないと支援介入のタイミングがない

4 ケアパスについて

- ケアは単一エピソードではない。たいていの場合入退院を繰り返す。
- 連携パスが一方方向ではないか。患者を中心として、情報がつながったケアサイクルになっていない。

…多職種人材育成研修での意見から…

1 市外医療機関の声

- 自宅退院できるかどうか判断の鍵は、本人の生活環境の情報
- 退院できる状況であっても、家族の希望でギリギリまで入院させておくこともある
- 本音として、ベットの回転率、稼働率の事情もある。

2 ケアマネの声

- 退院までに時間がない時点での介入
- 予後予測など、医療情報も早めに知りたい
- 在宅復帰後の生活について、本人や家族がイメージできてきない。



市外医療機関との連携状況（参考）

※参考

豊明市と関係の深い医療機関の属する、近隣市町の医療機関状況

二次医療圏	市	一般病床数		回復期病床数		地域包括ケア病棟		療養病床数	
		病床数	人口10万人 当り	病床数	人口10万人 当り	病床数	人口10万人 当り	病床数	人口10万人 当り
尾張東部	豊明市	1,505	2,139	0	0	0	0	28	40
名古屋	緑区	1,016	424	50	21	109	46	106	44
名古屋	南区	1,566	1,128	215	155	94	68	317	228
西三河南部西	刈谷市	820	554	102	69	0	0	519	350
※参考：愛知県		45,326	607	4,037	54	1,226	16	14,187	190

豊明市と関係の深い介護保険施設の属する、近隣市町の介護保険施設状況

二次医療圏	市	老人保健施設		特別養護老人ホーム	
		定員数	75才以上人 1,000当り	定員数	75才以上人 1,000当り
尾張東部	豊明市	448	59	259	34
名古屋	緑区	592	25	802	34
名古屋	南区	679	34	545	27
西三河南部西	刈谷市	246	20	300	24
※参考：愛知県		17,991	22	23,559	29

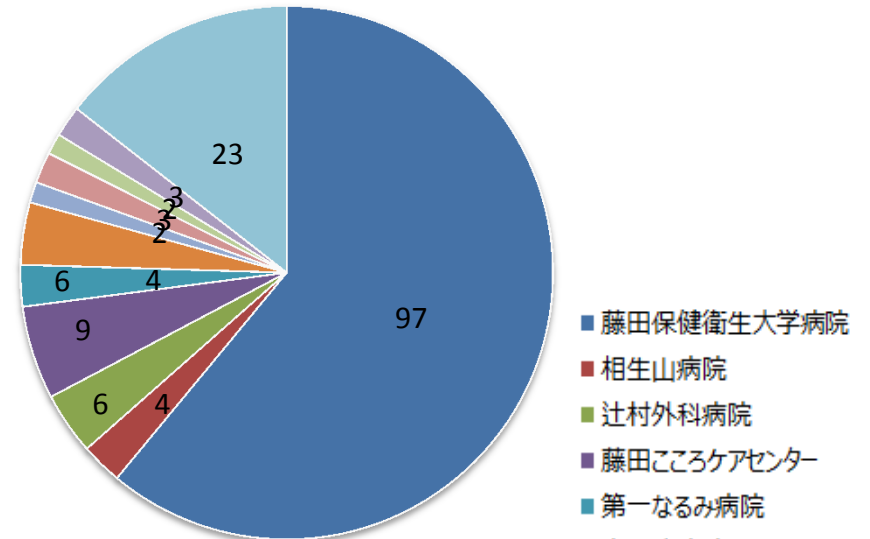
豊明市民の入院状況（平成27.7入院診療分）

■ 65才以上の入院先医療機関

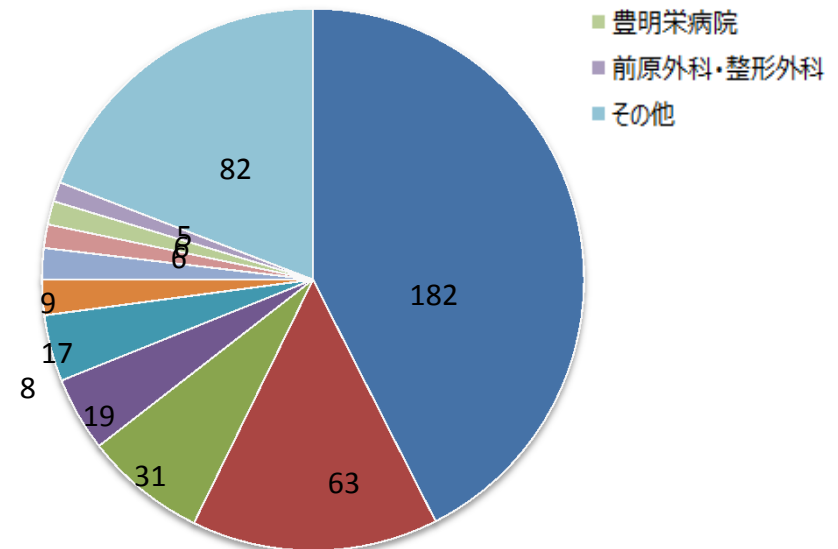
医療機関名	65～74	75～	計
藤田保健衛生大学病院	97	182	279
相生山病院	4	63	67
辻村外科病院	6	31	37
藤田こころケアセンター	9	19	28
第一なるみ病院	4	17	21
南生協病院	6	9	15
小嶋病院	2	8	10
平岩病院	3	6	9
豊明栄病院	2	6	8
前原外科・整形外科	3	5	8
その他	23	82	105
計	159	428	587

- ・藤田保健衛生大学病院の占める割合は、**47.5%**
- ・市外で連携の多い相生山病院、辻村外科病院、第一なるみ病院、南生協病院に、140人(**23.9%**)が入院。

■ 65才～74才（計159名）

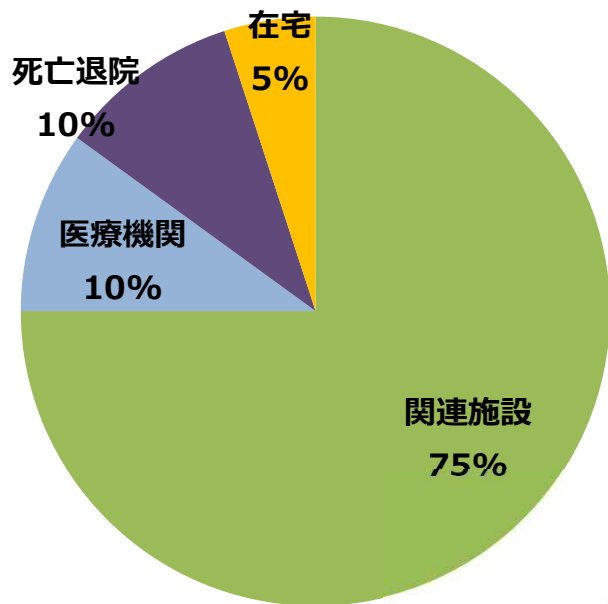


■ 75才以上（計428名）

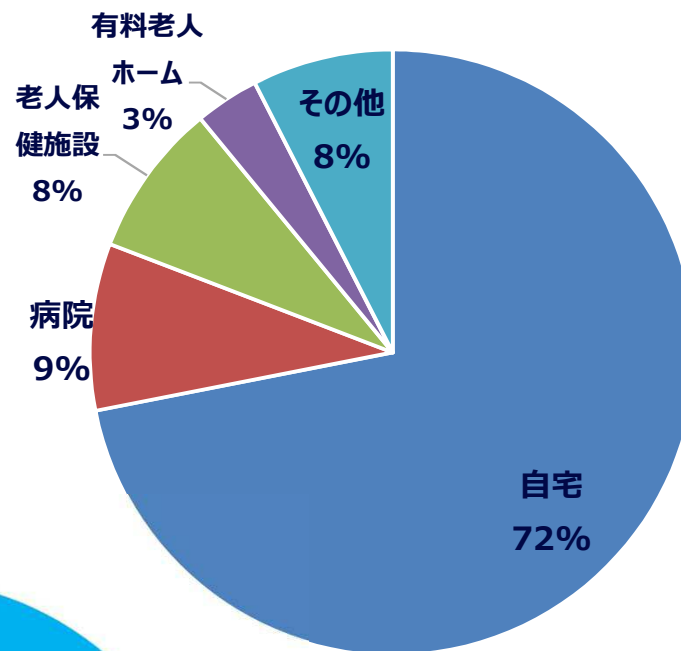


関連の深い医療機関との連携（平成27年度多職種協働人材育成研修資料より）

■ 相生山病院からの退院状況



■ 辻村外科病院からの退院状況



■ 第一なるみ病院からの退院状況

